

胡乃  
乃乃  
乃乃

麻

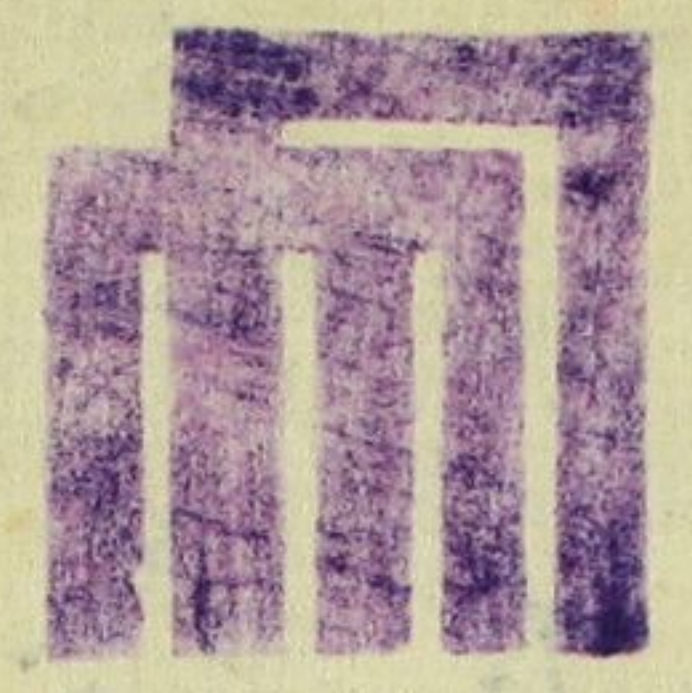
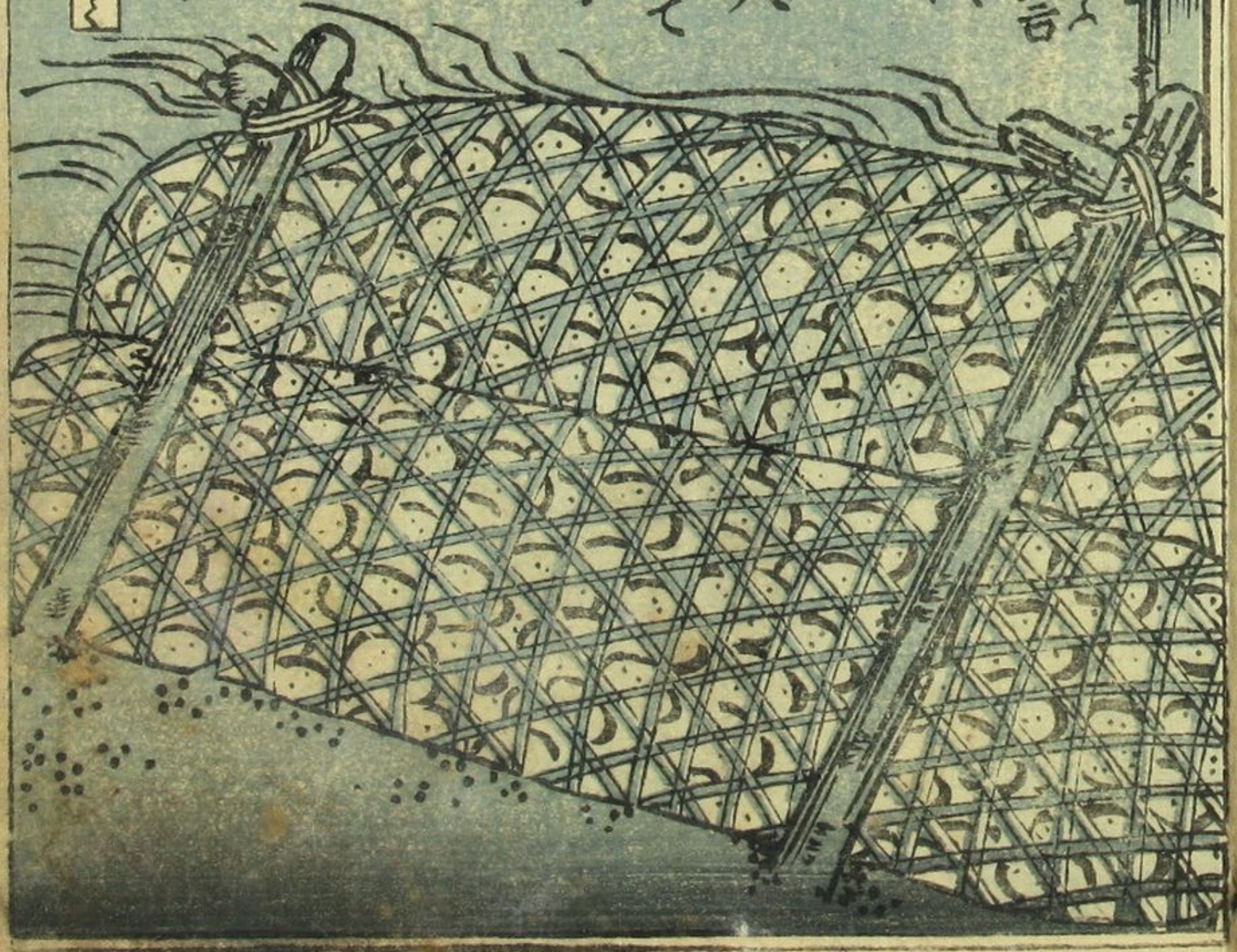
十八編上



# 大

四条河原に積塔會と言  
 吏あり這人王五十八代  
 光孝帝の姫宮兩夜の  
 内親王の報恩として盲人  
 會して石と積平家を語て  
 遠忌を吊りて夫と因  
 このありふあつねど  
 此巻中の座頭つる  
 親王あらぬ菊王の  
 りつ目盲と奈良の京  
 吉野内裏の

此巻中の座頭つる





菊王丸

胡蝶

武者五郎





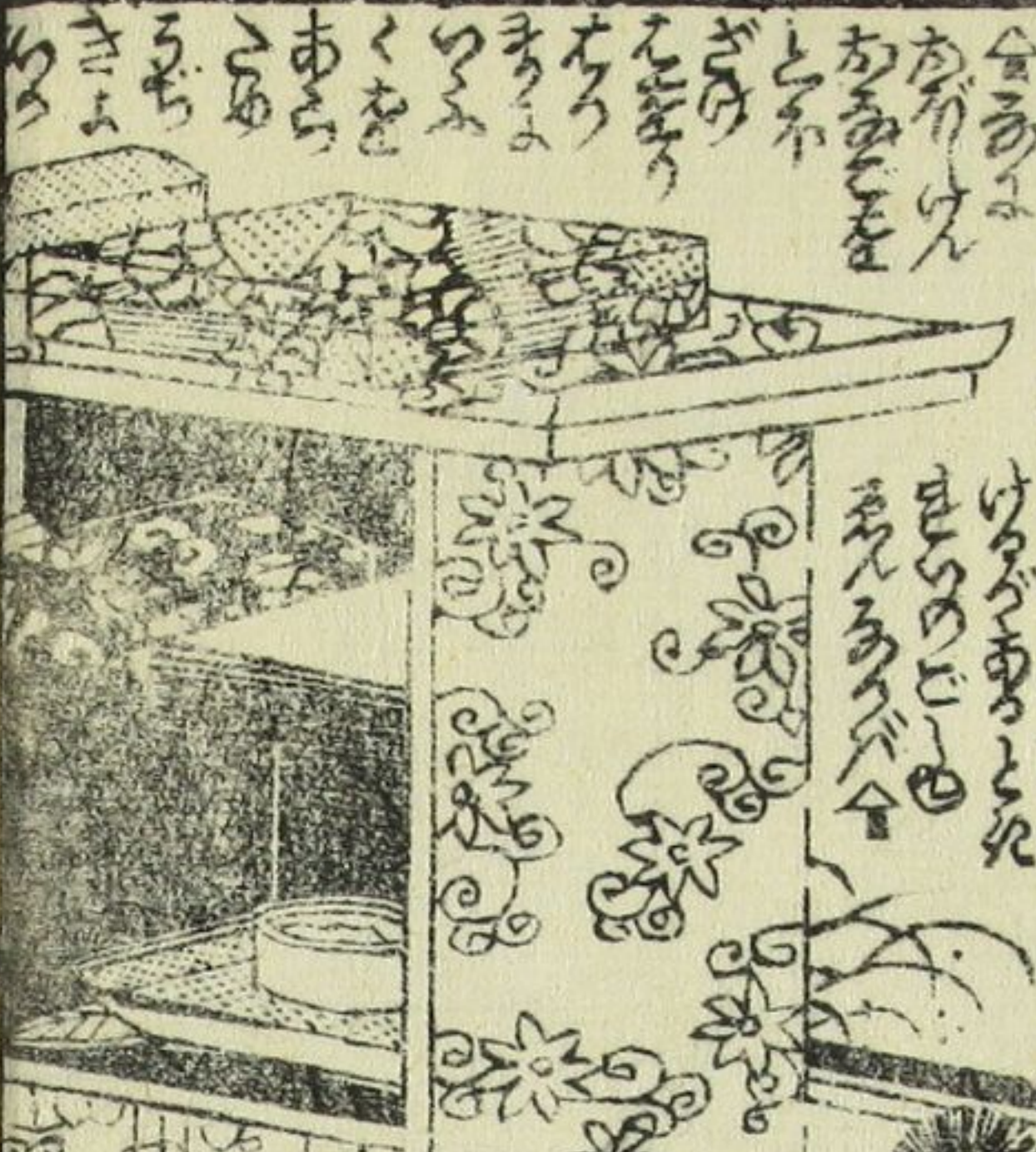




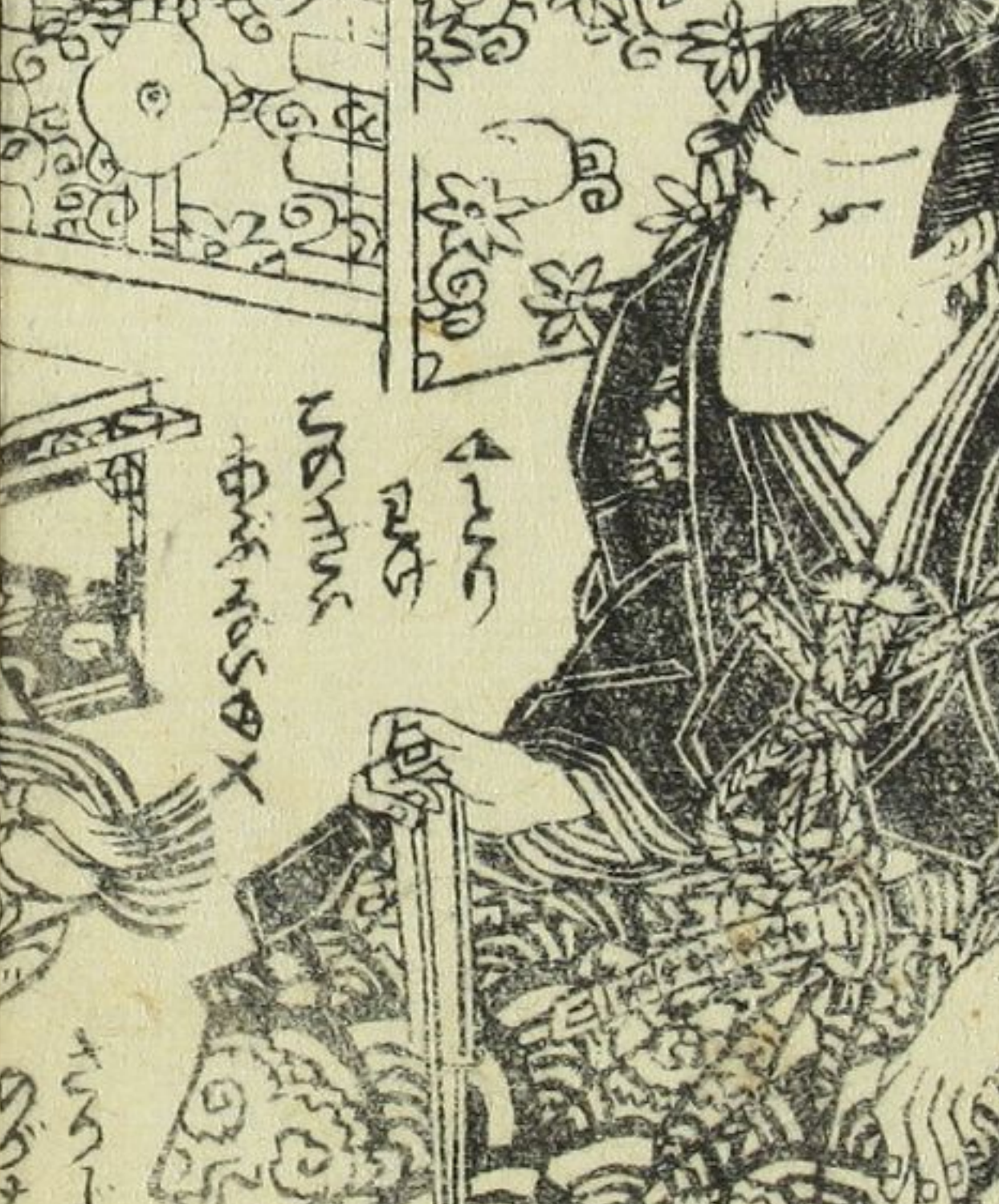




何れをさるるともあめいものこあら  
ふもあふふのぞきをさるるよりあま  
つゆとてつりくよのちかあて  
あれもあはれいそれとてあま情を  
てとてあはれいそれとてあま情を  
さかして山名いとつりくよのちか  
りつゆとてつりくよのちかあて  
あま情をてとてあはれいそれとて  
あま情をてとてあはれいそれとて  
あま情をてとてあはれいそれとて  
あま情をてとてあはれいそれとて



是馬は方方  
あま情をてとてあはれいそれとて  
あま情をてとてあはれいそれとて  
あま情をてとてあはれいそれとて  
あま情をてとてあはれいそれとて  
あま情をてとてあはれいそれとて  
あま情をてとてあはれいそれとて



あま情をてとてあはれいそれとて  
あま情をてとてあはれいそれとて  
あま情をてとてあはれいそれとて  
あま情をてとてあはれいそれとて  
あま情をてとてあはれいそれとて  
あま情をてとてあはれいそれとて  
あま情をてとてあはれいそれとて

の  
あま情をてとてあはれいそれとて



あま情をてとてあはれいそれとて  
あま情をてとてあはれいそれとて  
あま情をてとてあはれいそれとて  
あま情をてとてあはれいそれとて  
あま情をてとてあはれいそれとて  
あま情をてとてあはれいそれとて  
あま情をてとてあはれいそれとて

室田 十



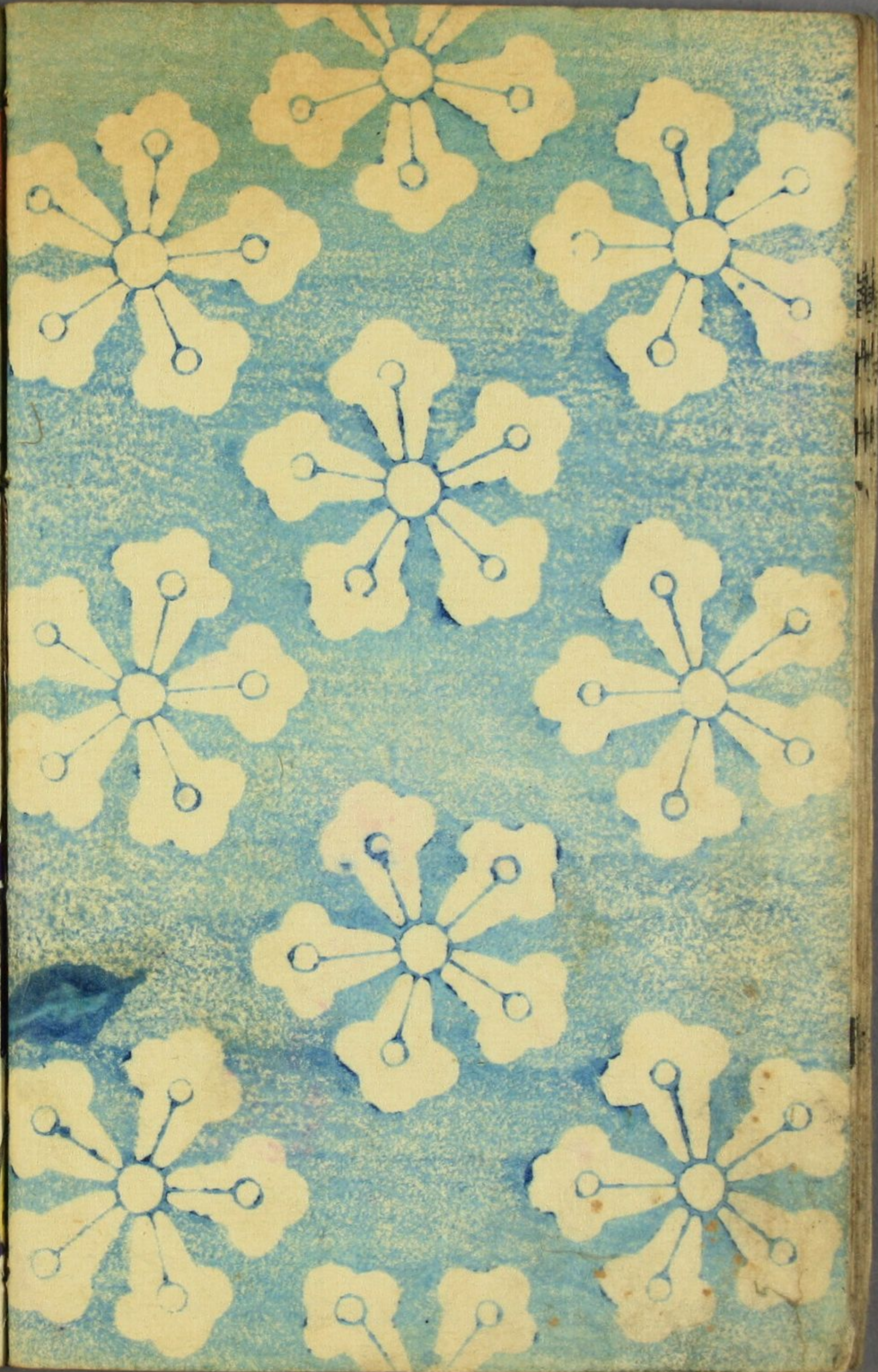






新  
松  
原  
楼  
画

十八  
編下







〇あまのこゝろは  
 まるまると  
 〇あまのこゝろは  
 まるまると  
 〇あまのこゝろは  
 まるまると



〇あまのこゝろは  
 まるまると  
 〇あまのこゝろは  
 まるまると

江戸一











つためくをせ  
るせがらろく  
せうとまん  
トのふ  
あつるや  
さむれそ  
ゆめのた  
ぬいよ  
まかせ  
さかき  
あのをめ  
けてきりつるを  
くんのあのみ  
まかせ  
くつせう  
せつせう  
しんせう  
せう  
せう  
せう

あつるや  
さむれそ  
ゆめのた  
ぬいよ  
まかせ  
さかき  
あのをめ  
けてきりつるを  
くんのあのみ  
まかせ  
くつせう  
せつせう  
しんせう  
せう  
せう  
せう



手巻  
天がわ  
あつるや  
さむれそ  
ゆめのた  
ぬいよ  
まかせ  
さかき  
あのをめ  
けてきりつるを  
くんのあのみ  
まかせ  
くつせう  
せつせう  
しんせう  
せう  
せう  
せう

あつるや  
さむれそ  
ゆめのた  
ぬいよ  
まかせ  
さかき  
あのをめ  
けてきりつるを  
くんのあのみ  
まかせ  
くつせう  
せつせう  
しんせう  
せう  
せう  
せう





Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a narrative or commentary related to the illustration.



Handwritten Japanese text in vertical columns, continuing the narrative or commentary.

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a narrative or commentary related to the illustration.



Handwritten Japanese text in vertical columns, continuing the narrative or commentary.







